(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3637460号
(P3637460)
(45)発行日　平成17年4月13日(2005.4.13)　(24)登録日　平成17年1月21日(2005.1.21)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A01K 97/06　A01K 97/06　502

請求項の数 2　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平7-219512
(22)出願日　平成7年8月4日(1995.8.4)
(65)公開番号　特開平9-47199
(43)公開日　平成9年2月18日(1997.2.18)
審査請求日　平成14年5月31日(2002.5.31)

(73)特許権者　595123977
池田　誠
広島県庄原市上原町２５６７番地
(74)代理人　100062328
弁理士　古田　剛啓
(72)発明者　池田　誠
広島県庄原市上原町２５６７番地

審査官　郡山　順

(56)参考文献　実開平０５－０８２２８９（ＪＰ，Ｕ）
実開平０６－０００７２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５８－１４６４７５（ＪＰ，Ｕ）
特公昭４０－０１０９３５（ＪＰ，Ｂ１）

最終頁に続く

(54)【発明の名称】フライライン保管器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
一対の軸受（５ｆ，５ｆ）に軸支した軸（５ｄ，５ｄ）の周りに正逆回転自在の水平長胴形の巻胴（５ａ）の周囲にフライライン（２）を巻付けるフライライン保管器本体（５）の台（５ｅ）と一体関係のベース（６）に、リール（１）を取外し可能に固定するリール固定腕（７）を、巻胴（５ａ）に対してそれぞれ水平方向に移動し、且つ起伏させると共に、固定機構（７ｍ）により水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定することが出来るよう取付けてなるフライライン保管器。
【請求項２】
リール固定腕（７）をベース（６）に取付けるに当って、リール固定腕（７）の基端部に貫通した水平貫通孔（７ｃ）に水平軸（６ｂ）を通したうえ、その水平軸（６ｂ）を、巻胴（５ａ）の軸に平行な長辺の両端に垂設した一対の軸受け（６ａ，６ａ）により支持すると共に、リール固定腕（７）を水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定する固定機構（７ｍ）を、リール固定腕（７）の基端部上面から水平貫通孔（７ｃ）に達するよう設けた螺孔（７ｎ）に固定ネジ（７ｐ）を締結するよう構成してなる請求項１記載のフライライン保管器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、径の小さいリールへ巻付けたままにしておくと、巻癖がつき易い、釣糸の一種

であるフライラインを不使用時リールから巻戻して、保管するのに適した径の大きいフライライン保管器（ラインストッカー）に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】

釣手段の一種にフライフィッシングと称して、例えば渓流魚（ヤマメ・アマゴ・イワナ・ニジマス等の鱒類）を釣るために、図１に示すように、専用の竿（図示せず）の基端部に装着したリール１に巻付けた、種々の特質を持ったフライライン２の先端に道糸３を連結し、その道糸３の先端に毛針４を付けたうえ、専用の竿をしならせて、リール１からフライライン２の自重によりそれを投飛ばし（キャスティングと称している）、毛針４を目標の水中に着水させ、捕食させて渓流魚を釣る方法がある。

【０００３】

また、その釣手段にも対象とする魚の生息する河川の大きさ、毛針を浮かせて釣るか、沈ませて使うかの違い、毛針の大きさ等に合わせてフライラインの種類を選定する必要がある。したがって、フライフィッシング愛好者は必ず数種類のフライラインを所持しておかなければばなない。

【０００４】

このフライライン２は径の小さいリール１へ巻付けたままにしておくと、巻癖がつき易いため、シーズンオフ（禁漁期間：一般に秋から翌年の春までの期間）等の不使用時は、リール１から巻戻して、図２に示す、径の大きい正逆回転自在の巻胴５ａに巻付け、複数組のフライライン２を纏めて保管することが出来るフライライン保管器５が使用されている。

【０００５】

また、フライライン２は釣り中に表面が汚れる、それをそのままにしておくと、次回の釣りの際、うまくキャスティングすることが出来なかったり、水中に沈んだりして、釣りに支障を生じるため、釣り終了後、予防のため、コンディショナーを付けた布で拭い、汚れを除去する必要がある。

【０００６】

上記フライライン保管器５について説明すると、巻胴５ａは、通常１０組程度のフライライン２の保管が可能に長胴形にするため、一対の円板５ｂ，５ｂ間、周に沿って複数本の棒５ｃを渡してあり、それぞれ円板５ｂ，５ｂ外面中心に垂設した軸５ｄ，５ｄを介して、水平な長方形台５ｅ，５ｅの上に相対して立設した一対の軸受５ｆに回転自在に軸支してある。なお、軸５ｄの一方は軸受５ｆの外側に突出させ、巻胴５ａを手で回転させるためのハンドル５ｇを取付けてある。

【０００７】

上記フライライン保管器５の使用方法について説明すると、フライライン２の巻取りに当っては、一方の手（左手）にリール１を持ち、そのリール１を巻胴５ａに対してその長手方向、適当な位置に保持し、他方の手（右手）でハンドル５ｇを回すと、巻胴５ａが回転し、複数組のフライライン２を巻胴５ａ長手方向に整理して巻付けることが出来る。また、巻胴５ａから巻戻し、リール１へ移すに当っては、所望のフライライン２をリール１に接続し、一方の手（左手）にリール１を持ち、他方の手（右手）でリール１のハンドル（図示省略）を回す。

【０００８】

しかしながら、上記従来のフライライン保管器５は、リール１とフライライン保管器５との間をフライライン２を移動するとき、常に両方の手を使用する必要があり、特にリール１からフライライン保管器５へ移すときは、その間ずっとリール１を持った手を巻胴５ａの長手方向巻付け位置に合わせた位置に保持するする必要があり、それに神経を遣い、疲れると言う問題点がある。

【０００９】

また、従来汚れを除去するときは、リール１から一旦全部巻戻して、床上（又は地上）に展開した状態にして、フライライン保管器５へ巻取りながら、フライライン２をコンディ

ショナーを付けた布で拭っているが、巻戻し作業が余分に必要であり、その間もつれ等もあって、作業が煩雑であると言う問題点がある。

【００１０】

【発明が解決しようとする課題】

解決しようとする問題点は、上記従来のフライライン保管器５は、リール１からフライライン保管器５へフライライン２を巻移しするとき、ずっとリール１を持った手を巻胴５ａの長手方向巻付け位置に合わせた位置に保持する必要があること、及び汚れ除去時の作業が煩雑であることであって、本発明は上記問題を解決した、リールを持つ必要がなく、フライラインの巻移し、汚れ除去に便利なフライライン保管器を提供するものである。

【００１１】

【課題を解決するための手段】

請求項１の発明は、一対の軸受５ｆ，５ｆに軸支した軸５ｄ，５ｄの周りに正逆回転自在の水平長胴形の巻胴５ａの周囲にフライライン２を巻付けるフライライン保管器本体５の台５ｅと一体関係のベース６に、リール１を取外し可能に固定するリール固定腕７を、巻胴５ａに対してそれぞれ水平方向に移動し、且つ起伏させると共に、固定機構７ｍにより水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定することが出来るよう取付けてあり、それによって、リール１からフライライン保管器５へフライライン２を巻移しするとき、リール１を水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定することが出来、ハンドルを持たない他方の手が自由になり、巻胴５ａの長手方向所望位置にフライライン２を巻付けることが出来るだけでなく、空いた手でコンディショナーを付けた布を持ち、巻取りながら汚れを除去することが出来るようになった。

【００１２】

請求項２の発明は、請求項１の発明のリール固定腕７をベース６に取付けるに当って、リール固定腕７の基端部に貫通した水平貫通孔７ｃに水平軸６ｂを通したうえ、その水平軸６ｂを、巻胴５ａの軸に平行な長辺の両端に垂設した一対の軸受け６ａ，６ａにより支持すると共に、リール固定腕７を水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定する固定機構７ｍを、リール固定腕７の基端部上面から水平貫通孔７ｃに設けた螺孔７ｎに固定ネジ７ｐを締結するよう構成してなるものである。

【００１３】

【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態について説明すると、１はフライライン２の他釣糸を巻付け、巻戻しするリール、１ａはその下部、軸に垂直な方向前後方向に突出させた脚台、３はフライライン２の先端に連結した道糸、４はその道糸の先端に取付けた毛針である。

【００１４】

次にフライライン保管器本体５について説明すると、次のように構成される。すなわち、５ａはフライライン２を巻付ける巻胴であって、通常１０組程度のフライライン２の保管が可能に長胴形にしてあり、一対の円板５ｂ，５ｂ間、周に沿って複数本の棒５ｃを渡してある。この巻胴５ａは、それぞれ円板５ｂ，５ｂ外面中心に垂設した軸５ｄ，５ｄを介して、水平な長方形台５ｅ，５ｅの上に相対して立設した一対の軸受５ｆ，５ｆに回転自在に軸支してある。なお、軸５ｄの一方は軸受５ｆの外側に突出させ、巻胴５ａを手で回転させるためのハンドル５ｇを取付けてある。

【００１５】

その次に上記フライライン保管器本体５と組合わせる長方形ベース６及びリール１を固定するリール固定腕７について説明すると、先ず、長方形ベース６は浅い箱状に形成してあって、その内側面はフライライン保管器本体５の長方形台５ｅと略同形であって、長方形台５ｅをその中に嵌込むと、水平方向には動かないよう固定される。なお、フライライン保管器本体５はベース６に対して、取外し可能にしてあるが、必要に応じ、取外し出来ないよう一体的に結合してもよい。

【００１６】

そのベース６にフライライン保管器本体５を固定した状態で、巻胴５ａの軸に平行な長辺

の両端に一対の軸受け６ａ，６ａを垂設すると共に、その軸受け６ａ，６ａに１本の水平軸６ｂを支持してある。またリール１を取外し可能に固定するリール固定腕７は、棒状体に形成してあり、その基端部に水平貫通孔７ｃを設けてあり、その水平貫通孔７ｃに前記水平軸６ｂを通すことにより、巻胴５ａに対してそれぞれ水平方向に移動し、且つ起伏させ、しかも後で詳細説明する固定機構７ｍにより水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定することが出来るようにしてある。

【００１７】

さらにリール固定腕７について具体的に説明すると、断面正方形の基端部７ａに断面円形の棒状体７ｂの先端部を残して上面を水平に削ったものを同軸に結合し、リール１の脚台１ａに掛止する２個のリング状リール留め７ｒ，７ｒを嵌めてあり、棒状体７ｂの先端にはそのリール留め７ｒ，７ｒが外れないよう大径の円板７ｓを結合してある。

【００１８】

さらに前記固定機構７ｍについて詳細説明すると、リール固定腕７の基端部７ａ上面から水平貫通孔７ｃに達するよう螺孔７ｎを設け、その螺孔７ｎに固定ネジ７ｐを締結することにより、リール固定腕７を水平軸６ｂに対して水平方向の所望位置に移動し、所望回動角度に起伏させて、固定するようにしてある。

【００１９】

【発明の効果】

本発明は以上のように構成されるため、リール１からフライライン保管器５へフライライン２を巻移しするとき、リール１を水平方向の所望位置及び所望回動角度に固定することが出来、ハンドル５ｇを持たない他方の手が自由になり、巻胴５ａの長手方向所望位置にフライライン２を安定して巻付けることが出来るだけでなく、空いた手でコンディショナーを付けた布を持ち、巻取りながら、フライライン２を拭うことにより汚れを除去することが出来るようになった。

【図面の簡単な説明】

【図１】釣糸とリールとを示す側面図である。

【図２】従来例を示す正面図である。

【図３】従来例の側面図である。

【図４】本発明の実施例を示す側面図である。

【図５】本発明のベース及びリール固定台を示す正面図である。

【図６】本発明の実施例のリール固定台を傾けた状態を示す側面図である。

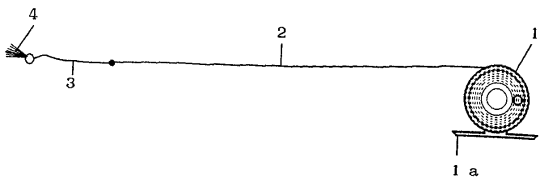
【図７】本発明の実施例のリール固定台を立てた状態を示す側面図である。

【符号の説明】

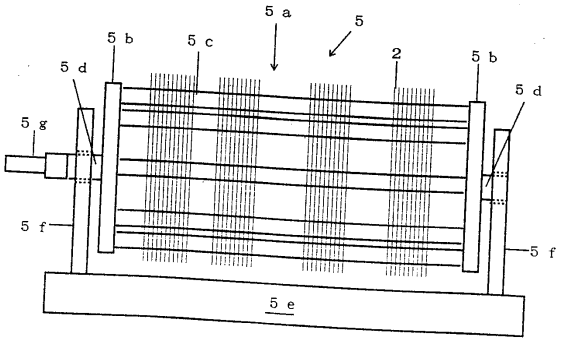
１　リール
１ａ　脚台
２　フライライン
３　道糸
４　毛針
５　フライライン保管器本体
５ａ　巻胴
５ｂ　円板
５ｃ　棒
５ｄ　軸
５ｅ　長方形台
５ｆ　軸受
５ｇ　ハンドル
６　ベース
６ａ　軸受け
６ｂ　水平軸
７　リール固定腕

７ａ　基端部
７ｂ　棒状体
７ｃ　水平貫通孔
７ｍ　固定機構
７ｎ　螺孔
７ｐ　固定ネジ
７ｒ　リール留め
７ｓ　円板

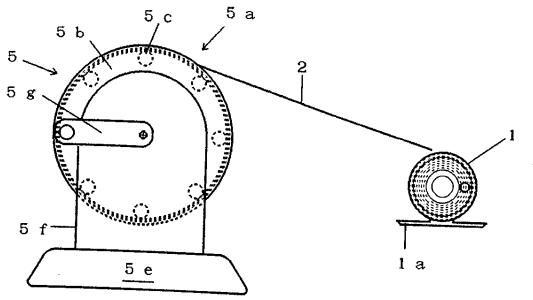
【図１】



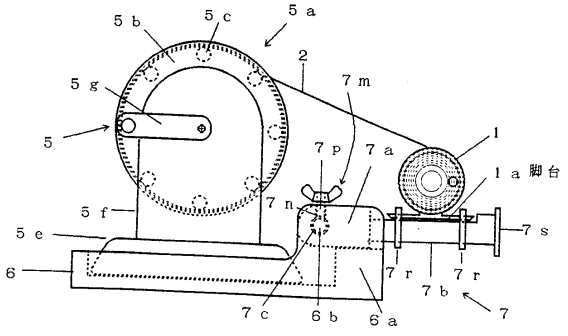
【図２】



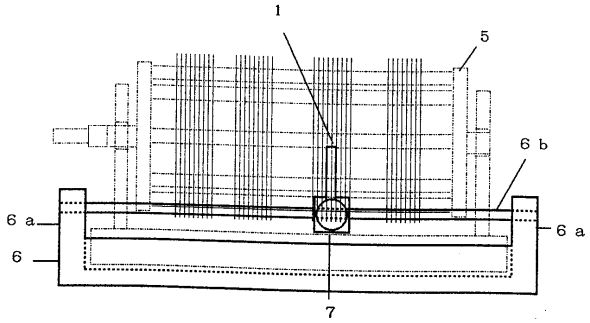
【図３】



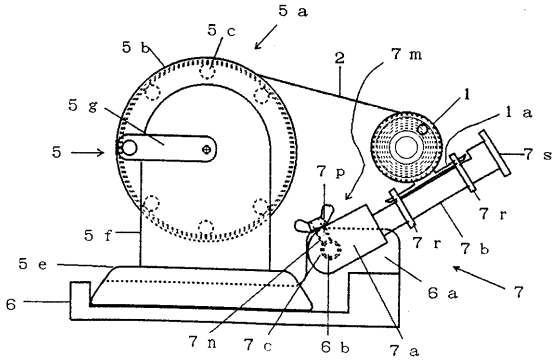
【図４】



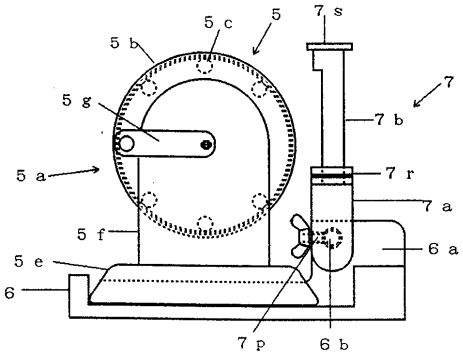
【図５】


1
5
6 b
6 a
6 a
6
7

【図６】


5 a
5 c
5 b
2
7 m
1
1 a
5 g
5
7 s
7 p
7 r
5 f
7 r
7 b
5 e
6 a
7
6
7 n
7 c
6 b
7 a

【図７】


5 c
5
7 s
5 b
7
5 g
7 b
5 a
7 r
7 a
5 f
6 a
5 e
6
7 p
6 b

フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.[7], ＤＢ名)
A01K 91/06
A01K 97/06 502